

港区長賞

都会と僕とカラス

六本木中学校 福住 星輝

「カー、カー、」

カラスが鳴いている。僕はこのカラスという動物が大好きである。大きくて真っ黒、つぶらな瞳。しかし多くの都会に住む人間はこの鳥が嫌いである。なぜか？第一にカラスはゴミをあさり、そしてまき散らし道を汚す。第二にカラスは人から食物をうばう。

「カラスなぜ鳴くの？カラスは山に・・・」

数多くの人達がこの唄を知っていると思う。この様にカラスは本来山や森に住む鳥である。今日、カラスがなぜ人間が多く住む都会に暮らしているのであろうか。第一に都市化によって多くのカラスが住む場所を奪われ、都会に生息せざるをえなくなったということがある。第二に都会に住む人間は多くのゴミを出すことがある。それもカラスが大好きな食べ物のゴミである。カラスは人間と同じ雑食である。すなわち人間が食べるものはカラスの好物といえる。都市化が加速する、ゴミが増える。そしてカラスが都会が増える。人間はこの悪循環に気づくことなくカラスを忌み嫌う。これではカラスがかわいそうなのではないかと僕は思う。ただ住む場所をうばわれ都市には山や森に

あるような食べ物は無い。カラスは生きるためにゴミをあさり、食べ物をうばう。都会に住むカラスにはこれしか生きる方法がないのである。「大きく黒く怖い」「ゴミを食べ散らかして汚くする」これらは全て人間のエゴである。カラスなどの鳥類は人間よりもずっと昔から地球に生息していた。あとから地球に生まれ、好き勝手なことをやって多くの野生動物を追いやっていっているのは人間である。それにも関わらずカラス等を「害鳥」と呼び忌み嫌うのはおかしい。

昔の人々は前述した唄からもわかるようにカラス等の鳥類やその他の野生の動物と共存、共生してきたはずである。昔の人々が行ってきたことを現在都会に住む僕たちが出来ないはずはない。どこかでこの悪循環をたたなければならぬと思う。それにはどうすればよいのであろうか。

第一に自然をむやみやたらに壊さないことである。森林の伐採は地球上の緑を減らし、結果として二酸化炭素を増大させ地球温暖化につながっている。もっともつと緑を増やしカラス等の野生の動物が住みやすい環境を作っていくなければならぬ。いわゆる「害鳥」のカラスも住む場所がなければ都市に住まざるを得ないのである。第二にゴミをこれ以上増やさないこと、逆に減らしていかなければならないことである。特に、食べ物を無駄にしないことが大切である。人間が食べるものは全て大自然からの贈り物である。これは家庭から出るゴミに限らない。都会の飲食店やコンビニから出るゴミの中にはまだ食べることが可能なものが多い。もつともつと自然からの贈り物を大事にし

て捨てないように心掛けなければならない。

このように自然を大切にして、食べ物を大事にしていけばこれからもカラス等の野生動物と人間は共存、共生していくことが可能であると僕は思う。カラスと僕との関係は、地球上に住む多くの動植物と人間との関係でもある。これ以上今以上にこの関係を悪化させてはならない。それは地球上に住む全ての生き物が住みやすい環境を僕たち人間が作っていかねばならないのである。これが現代に生きる人間の使命であると僕は考える。